

大分県 高校入試情報

令和7年度大分県入試の全体傾向

●入試問題の構成と特色

- 大問数は6問、小問数は29問でほぼ例年どおり。
- 大問1は小問集合、大問2は関数と図形の融合問題、大問3は確率、連立方程式の利用、大問4はデータの活用と箱ひげ図、大問5は空間図形と相似、大問6は合同の証明を含む三平方の定理の問題であった。
- 大問4のデータの活用の問題は会話形式で、題材は大分県の7月の100年分の気温のデータについてで、身のまわりの問題からの出題。
- 関数と図形の融合問題や作図、図形の証明は毎年出題されている。

★大分県の入試は、『数学の新研究』でバッチリ！

■ 実生活への活用力をみる問題の出題

・身近な題材について、方程式・関数・データの活用などの知識を使って考える問題がよく出題されているので、数学的に考える力を養っておく必要がある。

新研究で対策！

●「思考力・判断力・表現力を問う活用問題」(p.188～191)で、表やグラフなどを読みとり、数学で学習したことを実生活に活用して考える問題を集めています。

■ 証明問題の出題

・例年どおり、図形の証明問題が出題された。全文記述式の出題であるため、記述式の証明問題への対策が必要である。

新研究で対策！

●「ウォームアップ特集 合同の証明」(p.82～83)、「フォロー特集 マチガイから学ぶ！答案の書き方のコツ～図形の証明～」(p.96～97)で、証明のポイントや、証明の書き方のコツを詳しく解説しています。
また、「共通部分を見つけよう！合同と相似の証明」(p.182～183)で、集中強化できます。

文章が長く、設定が複雑な問題が多いので、焦らず丁寧に問題文を読むようにしましょう。



★大分県入試出題内容別・形式別傾向分析(過去4年間)

出題内容別の傾向	単元名／項目		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
	1年内容		●	●	●	●
出題内容別の傾向	1年内容	正の数・負の数	●	●	●	●
		文字と式			●	
		方程式		●		
		比例と反比例	●		●	
		平面図形	●	●	●	
		空間図形	●	●	●	●
		データの分析と活用	●			●
	2年内容	式の計算	●	●	●	●
		連立方程式	●		●	●
		1次関数	●	●	●	●
		図形の調べ方	●		●	●
		三角形	●			●
		平行四辺形	●			●
		確率	●	●	●	●
		データの比較と箱ひげ図		●	●	●
	3年内容	式の計算	●	●		
		平方根	●	●	●	●
		2次方程式	●	●	●	●
		関数 $y=ax^2$	●	●	●	●
		相似な図形	●	●	●	●
		円の性質	●			●
		三平方の定理	●	●	●	●
出題形式別の傾向	大問数		6	6	6	6
		小問数	27	26	28	29
	記述問題	図形の証明(説明)	1	1	1	1
		その他の説明・証明など		1	1	1
		立式・解法の過程の記述	1			
		作図(図形)	1	1	1	1
		作図(グラフ)	1			

★新研究で出題した大分県の入試問題(令和7年度)

p.13大問2(2),p.57大問2(2),p.69大問5,p.87大問4(2),p.170例題2